

鹿沼の祭り文化を支える 現代の名工

GENDAI MEIKOU

彫刻屋台修復・保存にかかわる匠

職種	内容
車師	車輪・心棒の製作
屋台大工	土台・柱・屋根等の製作
鋳師	鋳金具の製作
彩色師	彫物等の色差し
塗師	漆塗り
彫工	彫物の製作

江戸時代から受けつがれてきた伝統技術を継承し、鹿沼彫刻屋台の保存・修復事業に携わり祭り文化を後世に引き継ぐ匠集団。

車師

乾 芳雄 氏 (鹿沼在住)

荷車造りの家業を継いだ七代目。二十歳でこの道に入り、車輪・心棒造り一筋。「私には、図面などありません。指先の感触が全てです。」と話す職人です。



彩色師

澤田 了司 氏 (鹿沼在住)

彩色師は、「彫刻職人との勝負」入り組んだ曲線を形づくる彫刻に沿って、細かい線をひくのが最も難しい。波模様などはその波の「勢い」が、この線で違ってくる。独学での日本画からこの道に入り、はるか昔の彫刻職人達との「勝負」に臨む職人。



屋台大工

宇賀神 久雄 氏 (鹿沼在住)

屋台の新調や修復に携わり三十年、いまでは数少ない屋台大工職人の一人。常に「独学で身につけた技術と先人から伝承された技術を融合した仕事を心掛ける」と話す職人です。



彫工

黒崎 嘉門 氏 (鹿沼在住)

大田原市出身
屋台彫刻を志し二十一歳で転身。富山での五年の修行の後、平成元年、鹿沼に在住。以来、独学で彫り物技術の道を開き、関東周辺の彫り物を手掛けている職人です。



大工

石川 治 氏 (鹿沼在住)

鹿沼市出身
宮大工として神社仏閣の修復新調を中心に手がけた伝統技術を継承し、経験から学び得た技術を組入れ、宮大工技術の向上を図っている職人です。



鹿沼彫刻屋台のまめ知識

鹿沼の彫刻屋台には、架空の動物「竜・玄武・虎・鳳凰」が主に構図の中心的に配置されています。



もっとも多く用いられている「竜」は棟飾り、欄間、鬼板、懸魚、車隠し、障子回り、高欄下や多くの部位に用いられ、構図も多彩であり、「雲と竜」「竜と波」「竜虎の戦い」「竜単独」などがあります。竜を形から「鱗のある 蛟竜」「翼のある 飛竜」「角のあるきゅう竜」「角のないもの あま竜」と伝えられています。

竜の姿には、他の動物と九つの類似点があります。頭は駝、角は鹿、眼は鬼、耳は牛、項は蛇、腹は蜃、鱗は鯉、爪は鷹に似ており、背には八十一の鱗があると伝えられています。

